

高島地域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会

第1回協議会 報告

日時：平成25年8月23日（金）14：00～16：00

場所：高島市新旭公民館3－2会議室

本協議会は、湖西地域の市町（高島市）が水害や土砂災害による被害を軽減するために国・県とともに設置するもので、専門的な学識経験等に基づく助言を得るとともに、自助・共助・公助が一体となった対策を検討することを目的としています。

1. 開 会

会長の山口副市長より、「近年は全国各地で“これまでに経験のない大雨”という表現を用いるような大雨が頻発しており、これまでの経験則や常識にとらわれることなく、さらにそれを超えた想定外の事態も考えながら対策を検討していかなければならないと思っている。平常時から防災に対する検討を行っていくことの重要性は高まっており、本協議会において委員の皆さんの活発なご議論をお願いしたい。」との挨拶をいただきました。



2. 主な議事

(1) 協議会規約

開会に先立ち協議会規約の説明を行い、規約案のとおり承認をいただきました。第1回協議会の会長は規約に基づき山口副市長に努めていただくことになりました。

(2) 協議会での検討内容

市が抱える防災上の課題を解決していくという観点から、事務局より下記の2つのワーキンググループ（WG）により取り組んでいくことを提案し、了承されました。

① 防災情報WG

避難勧告について、発令判断に関して明確な基準を検討したいという市の課題に取り組みます。避難勧告は市民にとって重大な情報ですから、その基準が妥当なものとなっているか、本WGにおいて検討を行います。

同時に、防災担当職員が避難勧告の検討を行う際に参照するマニュアルの整備も重要と考えており、きめの細かい避難判断を行うための指標を検討します。水位関係表の検討やリスクの高い地区での避難計画など、個別の地区・地点に着目した取り組みも取り入れていきます。

② 水害・土砂災害に強い地域づくりWG

高島地域では近年、人命被害を伴うような大災害は発生していないが、全国各地で毎年のように豪雨や台風による洪水・土砂災害の被害が発生しています。地域の防災力を高めるために、本WGでは、地域の住民が主体的に避難について考えてもらえるよう、地域と一体となって取り組みを進めます。

■質疑応答・意見交換（主な意見）

- 避難勧告基準の検討について、地域が広いと市全体を見渡すというのは難しいと思います。ベテラン職員や地元の経験をもとにして検討していくというのも重要です。
- 重要なのは、行政と住民がうまくかみ合うように協議会で検討していくことと考えています。行政からの避難勧告を期待する住民と、地域で主体的に行動をしてほしいと考える行政との間で、互いに押し付け合って空白ができてしまうというのはまずいので、協議会ではそういう部分がないように検討を進めていく必要があります。
- 避難勧告を出す際、勧告を出す地域の内水氾濫の状況により垂直避難を考えてもらうような出し方をしないと、かえって避難者を危険に巻き込む可能性があります。現地の状況を手に入れる方法も考えておく必要があります。
- 空振りをできるだけ少なくしたいという思いから、基準となる数字にこだわりすぎた議論になるのを心配します。避難勧告を恐れずに出して、しっかり逃げてもらい、空振りであっても、何もなくよかったと言えるような議論を協議会でしていくことが実効的と言えるのではないかと思います。
- 他の圏域でも同様の取り組みが展開されていますが、うまくいった事例は、どういうプロセスでここまでこれたのか、ノウハウを協議会で共有していくといいと思います。
- 地域づくりWGでは、1年くらいかけて地域に入って現状を把握して、どのようにやっていくかを決める。次の年に防災訓練等を踏まえながら実効性のありそうな地区別の計画を作っていく。3年くらい活動してもらってあとは地域で自主的にブラッシュアップしていくという時間間隔で進めていくのが現実的ではないかと印象を持っています。
- 出前講座では、小学校と連携して防災文化を作っていくという話ができると、永く防災文化の熟成ができて、空振りを恐れなくていいような社会を作っていけるのではないかと思います。
- 簡易量水標の設置については良い評価をいただいています。分かりやすいということと、設置しているのが危険な場所ということもあって、役にたつと思います。高島市内にはこういった箇所はたくさんあるし、市としても現地を確認しながら、今後とも設置をお願いします。

■まとめ

これらの意見を踏まえつつ、検討を実施していくことになりました。